



## 縄文時代の暮らしに思いを馳せて 金子台遺跡の出土品を展示します

金子台遺跡の出土品は、町が昭和女子大学に調査や研究を依頼しておりますが、出土品の一部を生涯学習センターの資料展示室に展示し、公開いたします。

また、昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科の小泉玲子教授から遺跡や出土品についての解説や、古代の興味深いお話を聞かせていただきますので紹介いたします。

### 【金子台遺跡とは】

昭和 37 年に企業の本社拡張工事をきっかけに発見・調査された遺跡で、縄文時代中期および後期・晩期の遺物や遺構が数多く見つかりました。後期の墓地では、地面に穴を掘って遺体を納めた後、地上に複数の石を並べたと思われるお墓がたくさん見つかりました。また、墓地の南には、同じ時期の住居が見つかっています。

住む場所と墓地を区別して作っていることから、本格的な墓地の形成を知る上でも重要な遺跡です。

現在、墓地の一部は町の指定重要文化財（ストーンサークル）として企業の敷地内に保存されています。



### 【豆知識】縄文時代ってどのくらい前の時代？

縄文時代とひとことでいっても、1 万年というとても長い間つづいた時代です。ですから最初のころと終わりのころとではかなり生活のしかたが変わっており、縄文時代を 6 つの時期に分けています。

| 草創期       | 早期       | 前期       | 中期       | 後期       | 晩期       |
|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 16,500 年前 | 9,000 年前 | 6,000 年前 | 5,000 年前 | 4,000 年前 | 3,000 年前 |

## 展示品について

ひとくくりに縄文土器と言っても、様々な形や大きさのものがあります。使用する用途によって、古代の人々は土器を作り分けていたようです。

### 祭事として使用した出土品

祭事など特別な行事に使用されていたものと考えられ、お墓に埋葬されていたものと思われる。



縄文後期

四角い形が変わっていますが、今で言う急須です。穴があいている部分には本来注ぎ口がついていたと考えられています。



縄文後期

大きさや形、表面が丹念に磨かれていることから祭事など、特別な行事に使用されていたものと考えられ、お墓に埋葬されていたものと思われます。



縄文後期

この黒い出土品は、わざと黒く色が着けられています。土器を焼くときに草と一緒にいぶしながら焼くと、炭素が土器の表面に付着し、黒くなるそうです。



小泉教授に、出土品について解説していただきました。



#### 縄文後期

生活の中で使われていたものです。縄文後期には縄の模様がなく、シンプルな形の土器が見られます。



#### 縄文中期

生活の中で使われていたものです。表面の縄の文様や飾りが見られます。

**生活用具として使用した出土品**  
金子台遺跡は縄文中期から晩期にかけて大変長い間続いた遺跡です。生活用具も時代によって変化しています。



### 【出土品の復元について】

出土品は、どれも出土したときは割れてバラバラで、ここにあるものは全て、復元したものです。

出土品は破片が全て見つかるとはことはまれで、破片が見つからない部分を石膏で復元します。その部分を着色して本物のように仕上げる場合と石膏のまま、もしくはあえて本物と同じ色に着色しない方法もあります。こうすることで、破片からが全体の形を想像して復元していることが一目瞭然となるからです。



### 【土器の形について】

縄文時代の最初の頃の土器は底がとがっていました。とがっていても土に刺すことで安定し、火に当たる部分も多いことから熱効率がよく、調理に適していたと考えられます。

しかし、時代が進むにつれて底がとがった形の土器は作られなくなり底が平らな土器が主流になります。また、後期になると土器の底が小さくなる傾向が見られます。

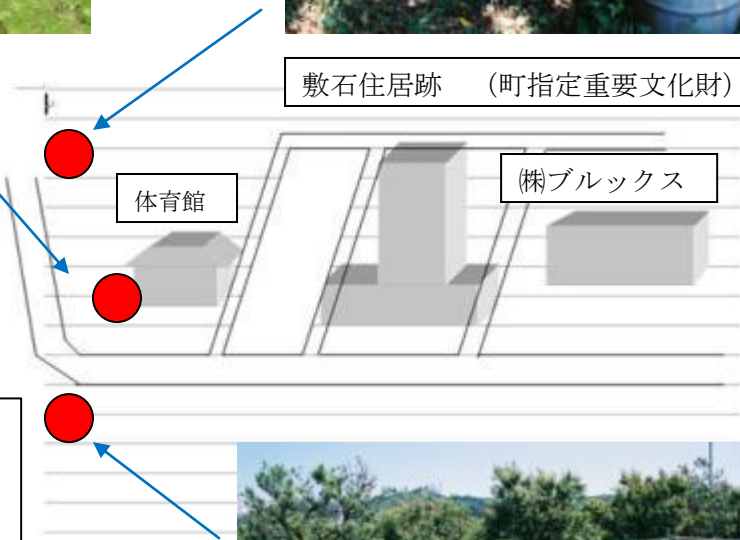
# 金子台遺跡を訪ねてみよう！



配石遺跡



敷石住居跡 (町指定重要文化財)



体育館

株ブルックス



ストーンサークル (町指定重要文化財)

## 【インフォメーション】

昭和38年2月当時の金子台遺跡 ストンサークル発掘調査映像（動画）を神奈川県ホームページで見ることができます。

<閲覧方法>

パソコン検索で、次の言葉を入力してください。

懐かしの神奈川映像 ストンサークル

→ 縄文時代のストーンサークルを発掘—神奈川県ホームページをクリック

